

平成30年度いばらきっ子郷土検定問題 解答と解説

那珂市 解説

組	番	氏名
---	---	----

番号	解 説	答
1	2018年（平成30年）6月1日現在、那珂市の人口は53,747人で約54,000人です。	4
2	2005年（平成17年）1月21日に、那珂町と瓜連町が合併して那珂市が誕生しました。2019年（平成31年）1月21日で那珂市は誕生してから14年になります。	1
3	今からさかのぼること約420年前の1602年（慶長7年）、佐竹氏の家臣、戸村城主であった戸村氏が秋田に移りました。1672年（寛文12年）戸村氏が横手城代となり、以降、秋田藩廃藩まで戸村家当主が横手城代を継承してきたという歴史的に深い関わりがありました。このような経緯から、2004年（平成16年）那珂市は横手市と友好都市関係を結びました。	3
4	オークリッジ市は、アメリカ合衆国テネシー州東部に位置する緑に囲まれた自然豊かな町です。オークリッジ国立研究所があり、那珂市の原子力研究所と古くから交流がありました。この交流が契機となり、1990年（平成2年）に国際親善姉妹都市を締結しました。現在も、中学生のホームステイ交換交流事業などの交流がおこなわれています。	4
5	那珂市の花はひまわりです。丸い花の形は市民の和を表すとともに、明るく元気なイメージが市のまちづくりを象徴しています。また、約25万本のヒマワリが咲き誇る「なかひまわりフェスティバル」が那珂総合公園を中心に毎年開催されています。	2
6	「日本さくら名所百選」に選ばれた静峰ふるさと公園で行われるイベントは八重桜まつりです。八重桜は、那珂市の「木」に制定されており、このイベント期間中には約2,000本の八重桜が咲き誇ります。	1
7	那珂市の鳥はハクチョウです。冬の澄みきった大空に群れをなして力強く羽ばたくハクチョウの姿は、未来への飛躍が期待される市のイメージにふさわしい鳥です。	2
8	根本正（ねもとしょう）は、1851年（嘉永4年）常陸国那珂郡東木倉村（現在の那珂市）の村役人の家に生まれました。1898年（明治31年）の総選挙に初当選して以来、連続10回当選し、未成年者喫煙禁止法や未成年者飲酒禁止法を提唱し成立させました。	2
9	なかっこ宣言は、社会の一員としてよりよい未来をつくるため、ふるさとを大切に、社会のルールを守り、那珂市の花「ひまわり」のように、明るく元気に育つことをめざして、2009年（平成21年）に制定されました。	3
10	那珂川にかかる那珂西大橋は、那珂市と水戸市を結ぶ橋として、取付道路を含む約900メートル区間が、2014年（平成26年）10月に供用開始されました。	1
11	那珂市下大賀の下大賀遺跡で、知られていなかった古墳一基が見つかりました。遺体を納めた石室の内部から副葬品の刀三点と勾玉（まがたま）一点が出土、地域の有力者の墓とみられます。	4
12	那珂市章は、那珂市の「ナカ」を翼と円で型取っています。翼は将来の那珂市の飛躍を、円は市民や市政の円満を表しています。	2
13	サイバーダイナミック茨城ロボッツが、那珂総合公園アリーナを練習拠点として使用していることから、マザータウン協定の締結につながりました。	3
14	量子科学技術研究開発機構那珂核融合研究所は、欧州連合（EU）と共同で建設を進める核融合実験装置「JT-60SA」について、装置の心臓部となる真空容器の組み立てを完了しました。	2
15	那珂市曲がり屋は町内に残る最後の茅葺屋根を解体保存し、一閑ため池親水公園内へ移設復原した物です。曲がり屋とは、住居と馬小屋、物置が一体となった寒さの厳しい地方の代表的な民家形式です。	1
16	2017年（平成29年）4月から那珂市の魅力発信を目的として、「いい那珂暮らし」のロゴマークを車体に描いた高速路線バスの運行を行っています。	4
17	那珂かぼちゃは、ホクホクとした食感と濃厚な甘さが特徴で、有機栽培で完熟させてから収穫するため、味はもちろん色、つや、糖度の高さどれをとっても一級品のかぼちゃです。	4
18	東洋経済新報社による「2017住みよさランキング」において、那珂市は全国71位、関東11位、県内5位となっています。	2
19	那珂市飯田の一乗院には、開運、厄除け、方位よけの仏様として、台座より高さ約16メートルの日本一の毘沙門天像があります。	3
20	2018年（平成30年）6月1日現在、那珂市の人口53,747人のうち15歳未満は6,710人で約12パーセントになっています。	1
21	東日本大震災で被災したひたちなか市の土蔵から、戦国武将・伊達政宗（だてまさむね）が常陸（茨城県）の武士に宛てた密書とみられる起請文（誓約書）が見つかりました。起請文は政宗が1589年（天正17年）、常陸の大名、佐竹義宣（さたけよしのぶ）の配下にあった額田城の城主、小野崎昭通（おのざきあきみち）に宛てたものです。	4
22	那珂町・瓜連町の合併5周年を機に、市民意識の高揚と更なる一体化の醸成を図るため、2008年（平成20年）7月から那珂市民の歌等制定委員会を設置し、2009年（平成21年）10月に完成しました。そのなかの2番の歌詞に科学の力と歌われています。	2
23	1,300年前に編さんされた『常陸国風土記』には、静織の里（しどりのさと）で初めて倭文（しづ）を織ったので「静」という地名がついたと記されています。倭文織（しづおり）は当時のものは残っていませんが、文献などから植物の繊維で綾模様を織りだした美しい布だったということがわかっており、復元の取り組みが行われています。	3
24	那珂市では11月の第2土曜日を那珂市小中一貫教育の日としています。また、小中一貫教育を実施するにあたり、中学校区ごとに学園名をつけました。学園名は、一中学区「ばら野学園」、二中学区「青遙（せいよう）学園」、三中学区「緑桜（りよくおう）学園」、四中学区「わかすぎ学園」、瓜連中学区「白鳥（しらとり）学園」です。	4
25	2019年に開催されるいきいき茨城ゆめ国体において、那珂市でおこなわれる正式競技「馬術」は県立水戸農業高校でおこなわれます。また、那珂総合公園を会場にデモンストラーションスポーツ「3B体操」もおこなわれます。3B体操とは、3つの「B」がつく用具（ボール、ベル、ベルダー）を使用する体操です。みんなで茨城国体を盛り上げましょう！	3